

## タマネギ腐敗病・軟腐病

腐敗病（病原細菌：*Erwinia rhapontici*, *Pseudomonas marginalis* pv. *marginalis*,  
*Burkholderia cepacia*）

軟腐病（病原細菌：*Erwinia carotovora* subsp. *carotovora*）

### ○ 被害と発生生態

両病害ともに細菌によって起こる病気である。

腐敗病は2～3葉期頃から見られ、はじめ多数の暗緑色水浸状小斑点が葉身に発生し、拡大融合して不整形の病斑となる。病斑は葉脈に沿って上下に進展し、葉しょう基部に達すると、鱗茎が軟化腐敗する。貯蔵期間中に発生する鱗茎の肌荒れ症状も本病の1症状である。

軟腐病は鱗茎の肥大期から見られる。はじめ下位葉の葉鞘部が灰白色ないし淡褐色に変わり、病勢が進むと鱗茎が軟化腐敗し悪臭を放つ。貯蔵・輸送中にも腐敗症状が発生する。

両病原細菌は土壌中に生息し、虫害や農作業などによる傷から侵入する。いずれも排水が悪いほ場で発生が多くなる。

なお、腐敗病菌はレタス、ハクサイ、ネギ、ワケギ、軟腐病菌はダイコン、トマト、ジャガイモ、ニンジンなど多くの茎葉菜類、果菜類に感染し、腐敗病や軟腐病を引き起こす。

### ○ 防除方法

#### (ア) 耕種・物理的防除

- ・連作を避けるとともに、水田化をして土壌中の菌密度を低下させる。
- ・ほ場の排水対策を徹底し、高畝栽培する。
- ・窒素肥料の多用を避ける。
- ・発病株は除去し、ほ場外で処分する。
- ・収穫は傷付けないように注意し、晴天時に行う。鱗茎は十分に乾燥させる。
- ・貯蔵は通風を良くするために詰め込みすぎないようにする。

#### (イ) 薬剤防除

- ・強風雨の前後に予防散布する。
- ・薬液が株元にかかるよう、丁寧に散布する。
- ・害虫の食害痕から感染するので、害虫を対象とした防除を徹底する。



軟腐病



腐敗病



腐敗病  
(軟化したりん茎)